令和6年度 第1回奄美市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	令和6年6月10日(月)14:00~16:00
開催場所	奄美市役所 5階大会議室
出席者 (12名)	平田委員長, 加世田副委員長, 正本委員, 吉村委員, 福崎委員, 福田委員, 川内委員 稲田委員, 川畑委員, 垣内委員, 松山委員, 西谷委員
事務局	福祉事務所長, こども未来課, 福祉政策課, 健康増進課, 重点政策推進監, 学校教育課 住用総合支所市民福祉課, 笠利総合支所いきいき健康課
〈議題〉	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 辞令交付 3 市長挨拶 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第2期奄美市子ども・子育て支援事業実績 (2) 放課後児童クラブの新規公募について (3) 会議スケジュールについて (4) その他 5 閉会
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
<p>新年度に伴う自己紹介をしたのち、協議を行った。</p> <p>(1) 第2期奄美市子ども・子育て支援事業実績</p> <p>資料1, 2に基づき、第2期奄美市子ども・子育て支援事業実績を報告</p> <p>質疑は、以下のとおり</p> <p>(委員)</p> <p>待機児童が増えた状況について、定員は変わらないが児童を預かれない理由として、これまでは定員120%を超えない範囲で預かっていたが、昨年度は99%であった。ひとつは保育士の確保が困難である。もうひとつは療育を必要とする児童が増えている。ほぼ毎日並行通園しており、多いところは半数が並行通園している。療育が必要な児童をどのように繋ぐか、施設同士の連携、小学校への繋ぎ方など検討が必要。療育施設の数などの資料も今後出してほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>子どもの数は減少しているが、療育に繋がる児童は増えている。チャレンジプランにも実数があり、要因として早期療育支援への繋ぎが手厚い、奄美市の取り組みの成果といえる。未就学児は診断が必要なく、気になる段階で丁寧な支援・施設利用が可能。健診等にて保健師が繋げている。保育幼稚園への繋ぎとして運営費の加算等のハードルが高く、手厚い支援に対し手厚い補助が少ない。運営費加算には手帳・診断が必要だが、保護者の心理的負担が大きく、施設側からの声掛けも信頼関係を崩しかねない。療育が理由で利用を断られることもある。手厚い政策・待遇の見直しがあれば、市の目玉となり得る。学童も同様である。放課後等デイも飽和状態で、新1年生の受け皿も限られている。</p> <p>(委員)</p> <p>資料1の2、幼児期の学校教育保育の量で、量の見込みと実績定員確保数だが、利用定員が1,855名、R6年度実績は1,376名。差が479名で空きがあるが、実際は職員不足や療育が必要な児童により利用定員を満たせない。今後の計画で確保数1,855名は難しいと思うがこのまま維持でよいのか。</p>	

(事務局)

数字上は定員が余っているが、実際は定員を確保できていない。各保育所が保育士を確保できる施策をこども未来課・重点政策推進監で検討し、計画通りに確保ができる体制を整えたい。

(委員)

処遇待遇について、保育園で働く保育士は保育園の処遇改善で、療育で働く職員も保育士であるが障害サービスの処遇改善だが経験年数が上がるほど額が全く違う。どちらも運営しているので分かる。聖隷福祉事業団内での人事異動で待遇の違いにショックを受ける職員もいる。療育に携わる職員も同じ資格をもっている所以で処遇改善してほしい。

(2)放課後児童クラブの新規公募について

資料3に基づき、放課後児童クラブの新規公募についてを報告

質疑は、以下のとおり

(委員)

朝日は隣にプレハブを増設する予定はないか。

(事務局)

現在予定なし。余剰教室もない状況であり、不足している分の対応策の一つとして公募を上げている。

(委員)

笠利と住用地区の状況を教えてほしい。

(事務局)

資料2枚目の11クラブ16クラスのうち、住用地区1クラブ、笠利地区2クラブが運営。住用オレンジクラブは東城小中学校の近隣地だが、住用小学校からも学童支援員が送迎をして利用している。笠利は、赤木名小を中心とした赤木名放課後児童クラブ、節田小と緑が丘小の児童が通うあまみっこ児童クラブがある。定員や利用人数は資料を確認していただきたい。

(委員長)

特にご意見なければ、今後スケジュール通り進めてよろしいか。

(特に意見なし)

(委員長)

特に無いようなので、事務局のほうで進めてほしい。

(3)奄美市子ども・子育て会議スケジュール(計画策定スケジュール)

資料4に基づき、奄美市子ども・子育て会議スケジュール(計画策定スケジュール)を報告

(4)その他

その他の資料及び参考資料に基づき、奄美市保健福祉部重点政策推進監の概要、奄美市子育てに関するアンケート調査報告書、令和元年度奄美市議会政策立案推進会議からの提言内容に関する現状報告、笠利・住用新設認定こども園について報告

(委員)

東城住用へき地保育所の職員数は何人か。

(事務局)

所長が1名ずつ、東城は常勤の会計年度職員が1名、住用は常勤の会計年度職員が2名、住用地区では合計で5名。児童数は東城が3名、住用は9名。

(委員)

今後0～5歳で定員40名なので配置基準によっては職員が必要になるが奄美市は不足している。2年後開園なので今後どのように計画するのか気になっている。

(委員)

3園で定員100名は結構大きいですが、立地的に用安の家庭が送迎して、龍郷町・奄美市で仕事があると大変だと感じる。送迎を想定しているのか。

(事務局)

施設統合は赤木名保育所と赤木名幼稚園だが、R3年度のありかた指針では屋仁・佐仁、用安のへき地のほうもR8年度までには統合する。先に児童数の少ない屋仁・佐仁分園のほうは休園、用安が残っている。赤木名保育所が60名、赤木名幼稚園が7名、用安が10名だが、節田・宇宿の利用も想定して100名としている。用安からの送迎も検討が必要なので、保護者と話しながらいいい方向で考えたい。

(委員)

数字等の報告が多く発言機会が少なかったと思うが、現在「もうひとり産みたい保育園」というのがあるが、何か意見・アイデアなどないか。

(委員)

現在2人子どもがいて、もう1人欲しいと思っている。1人目は7月生まれだが、周りから4月でないと無理と言われたので、本当は子どもと過ごしたかったが育休を早く切り上げて4月入園した。2人目は1年間過ごす為に4月を計算して妊活した。

(委員)

- ・保育士の事件について保護者も不安感と保育士の大変さもある。21歳で育児を経験していないが、保護者同士は共感できる。
- ・テレビで育児休暇について、代替で仕事をする人に10万円支給し、休暇を取得し易い取り組みをしている会社があった。
- ・親族に支援が必要な児童がいて教員が1対1で対応してくれた。対応には大変さあるので処遇改善してほしい。

(委員)

(先に話題になった事件は)保育士を送り出す立場として悲しい事件であった。育児経験がなく4月から働いていて今が一番つらく辞めたい時期である。この時期に進路の定着指導として、就職先や本人の様子を聞いており、周りからの温かい言葉が必要だと思う。

質問・ご意見について説明し、会議終了